

通し番号	4008
------	------

分類番号	15-36-15-04
------	-------------

(成果情報名) 冬期葉中カリウム濃度によるウンシュウミカン「大津4号」の着花量予測
[要約]大津4号の3月1半旬の葉中カリウム濃度から、着花量を推定できる。また、葉を採集した前後2ヵ年の収量の変動値と葉中カリウム濃度の関係から、規格外の大果比率を下げる樹体、結実管理方法を判定できる。
(実施機関・部名) 神奈川県農業総合研究所 根府川試験場 連絡先 0465-29-0506

#### [背景・ねらい]

神奈川県的主力品種である「大津4号」は高糖度という利点を持つ一方、他のウンシュウミカンに比べ、著しく強い隔年結果性を示し安定生産が難しい。隔年結果性は、生育期の樹体栄養、冬期の貯蔵養分量に大きく影響を受けることから、大津4号の冬期の樹体栄養と翌春の着花量の関係を明らかにし、葉分析による着花量予測技術を確立する。

#### [成果の内容・特徴]

1. 成木44樹について、3月1半旬に未結実の春枝中位から1樹当たり20葉を葉柄のついた状態で採集し、カリウムの濃度を測定したところ、葉中カリウム濃度と翌春の着花率には正の相関が3ヵ年続けて認められ(図1)、当年の着花量を推定が可能である。
2. 現地生産者の圃場でも、同様の結果が得られる(図2)。
3. 着花率の から と3L以上の規格外の大果割合との関係を見ると、 は低収量で大果が10から40%、 は中程度の収量で大果5から25%程度、 は高収量で大果が10%以下に分類できる(図3)。
4. 冬期葉中カリウム濃度からも、 から の着花程度に分類することができる(図2)。

#### [成果の活用面・留意点]

1. 慣行栽培で収量変動が0になる葉中カリウム濃度の0.9から1.2%で維持すると、着花程度 になり、規格外の大果が10から40%生産され(図3)、生果出荷率が低下する。

[具体的なデータ]

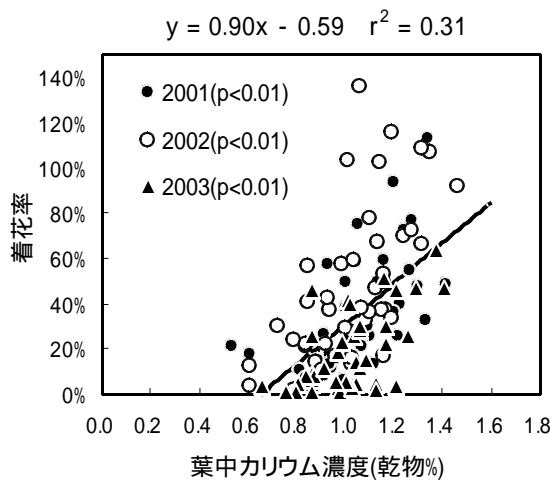


図1 3カ年の冬期葉中カリウム濃度と着花率の関係

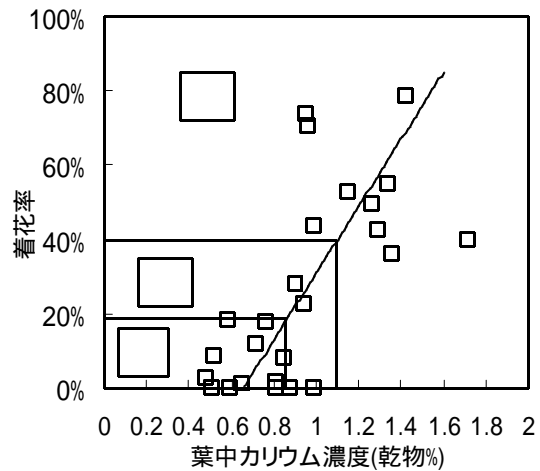


図2 現地での冬期葉中カリウム濃度と着花率の関係  
( , , : 当該年度の着花の程度)

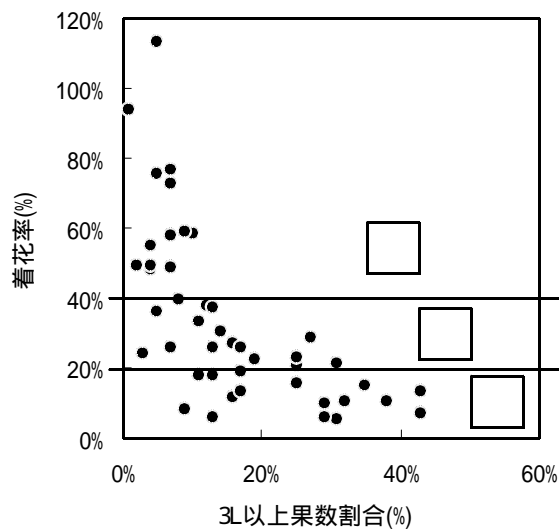


図3 収量と着花率および3L級果実の果数割合の関係  
( , , : 当該年度の着花の程度)

**着花率**

前年未結実の春枝20本を樹冠の目通り部でランダムに選び、これらの全節の発芽状況を、有葉花、直花、新梢、不発芽の分類で記録し、下記により着花率を計算した。

$$\text{着花率} = (\text{有葉花数} + \text{直花数}) / \text{全節数}$$

[資料名]平成15年度試験研究成績書(カンキツ・キウイフルーツ)

[研究課題名]ウンシュウミカン及びキウイフルーツの樹体栄養測定法の確立とそれに基づく高品質・安定多収生産技術

[研究期間]平成12年～15年度

[研究者担当名]浅田真一、鈴木伸一、鈴木誠、佐々木皓二、真子正史